



photo by Kawaragi

NORIO IMAI

Videotape Garden

2
0
2
4
2/14-3/2

今井祝雄

ビデオテープガーデン

2/14(水) - 3/2(土)

PM12-7(最終日 ~PM5)

休廊 日・月・火曜

対談『ビデオの時代』

出演 今井 祝雄・林 勇氣(映像作家)
日時 2/17(土) PM5~6
会場 +1art
参加費 500円(1ドリンク付)
要メール予約 +1art(gal@plus1art.jp) 定員15名

ビデオテープはカセットテープと同じく磁気テープの一種で、1980年ぐらいから2000年ぐらいまで、映像の一般的な記録手段でした。本展では、この時代のビデオテープが素材として使われています。

いまではビデオテープは殆ど見かけなくなりましたが、磁気テープそのものはデジタルデータの記録媒体としてgoogleに採用されるなど再び脚光を浴びているとか。一時は絶滅危惧種といわれた磁気テープは、近年になって生産量が増え、未だ健在です。

記録媒体のアナログからデジタルへの変換は、この30~40年の間に急速に進みました。それに伴い表現もこれから変化していくでしょう。私たちはいまその現場に立っています。

+1art カワラギ

私は往年のSPLコードを割って積み上げたり、リールから取り出したオープンリールの録音テープを球体状に巻き付けるなど、記録メディアを物質として扱った近作の延長で、このところ再びビデオテープを用い出した。

「再び」と書いたのは、DVDもSNSもまだないビデオ全盛の1980年前後に、撮影録画と同時にビデオテープを引っぱり出して被写体に絡めるパフォーマンスを行っていたからだが、しかし同じテープであっても、時を経た現在では素材としての認識は大きく異なるものである。

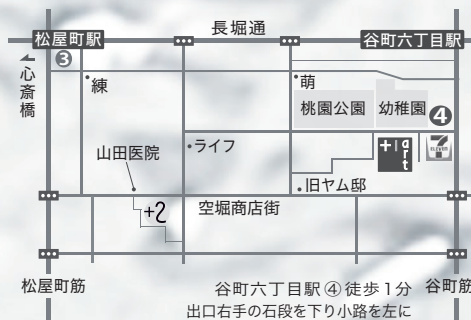
そんないま、録画された大量のビデオカセットをばらし、リールから解放したテープによるインスタレーションを試みている。もはや再生不可能となったおびただしいこれらのビデオテープは、某氏が若い一時期にテレビ放映された映画をエア・チェック録画したものだが、いまや不要となったそれらには多くの人がたが見ただろうポピュラーな映画の数々と時間が収まっている。

今井祝雄



NORIO IMAI

1946年大阪市生まれ。美術家。1960年代より造形や映像作品を発表。1965年より1972年の解散まで具体美術協会に参加。主著に〈白からはじまる〉(ブレンセンター)、〈タイムコレクション〉〈余白とフレーム〉(ともに水声社)ほか作品集に〈NORIO IMAI〉(Axel and May Vervoordt Foundation)がある。



+1art 大阪市中央区谷町6-4-40 TEL 06-7712-6685

